

グループホーム やまびこ

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		全職員で、共有し、理念の実践に向けて、日々、取り組んでいる。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		運営推進会議に家族の方や地域の方に参加して頂き、意見交換の場を大切にしている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		隔月に運営推進会議に出席して頂いている。行事の際、詩吟など披露して頂いている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		公民館で、月一回、食事会があるので、参加できる利用者様と一緒に交流を兼ねて、取り組んでいきたい。

グループホーム やまびこ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	年2回、主治医による医療に関する勉強会や、交通マナーの勉強会に参加して頂いている。運営推進会議にも参加して頂き、認知症の方と交流していく中での意見交換を行っている。		勉強会や、運営推進会議の日程が決まり次第、地域の方々に手紙を郵送し、参加をお願いしている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員で話し合いながら、取り組んでいる。前回の評価での改善点についての応急処置については、教育を行い、状況変化や、緊急時に迅速に対応できるように、具体的な改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行っている。2ヶ月の活動報告を行い、意見、助言を頂くことで、施設の向上に役立っている。		助言を頂いた際は、改善を図り、必ず次回の運営推進会議で報告している。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	自治体主催及び、他の研修の講師や実習受け入れ等により、行政と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		ソーマン流し大会など、大きな行事などに参加して頂けるように取り組んでいる。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度に関するパンフレットや書籍を揃え職員及び、家族の周知を図っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月1回のミーティングを行い、高齢者虐待防止について取り組み、スタッフ同士、意見交換し、虐待を行わないケアを行っている。		スタッフの虐待現場を発見したら、必ず管理者に報告するようにしている。もしくは、地域包括支援センターに通報する。

グループホーム やまびこ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所前に事業所内を見学して頂き、その後、重要事項説明書を用いて、十分な説明を行い、契約を締結している。又、契約書及び、重要事項説明書の内容に変更が生じた時には、変更箇所について、説明を行い、再度書面にて、締結している。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月1回、介護サービス相談員の方と、交流できる環境を配慮している。</p>		<p>施設内を自由に活用して頂き、利用者様9名と交流を持って頂き、1時間程過ぎて頂いている。又、ソーマン流し大会や消防訓練にも積極的に参加して下さっている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月1回、介護サービス相談員の方と、交流できる環境を配慮している。御家族様に、利用者様の健康状態、日常の状況などを書いている(日常生活近況報告書)。また、健康状態など異変があれば、電話にて報告している。</p>		<p>運営推進会議でスタッフの異動を報告し、出席されていない御家族様には、来所された際に報告している。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期的に家族会を開催し、意見交換を行ったり、職員と直接話し合う機会を作っている。また、玄関に苦情箱を設置し、毎月郵送する利用者様請求書に「ご意見カード」を同封し、意見集約に取り組んでいる。</p>		<p>苦情箱を設置し、月1回ミーティングの時に設置箱を確認し、苦情があれば、ミーティングの場で話し合い、改善に努めている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>理事長とマンツーマンで意見交換できる面接を、年に1回設けている。又、職員懇親会や職員慰安旅行も年間行事に加え、職場を離れ、運営者と接点を持てる様に取り組んでいる。</p>		<p>普段意見を言えない職員への提案を聞ける環境作りに取り組み、事業所内の職員の団結力を向上していきたい。今年から、年2回の面談を予定している。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>法人のシフトに30毎の勤務シフトを設けており、入居者の状況の変化にたいおうできるように、シフト時間を職員ミーティングにて協議し、勤務調整を行っている。</p>		<p>運営推進会議や家族の集う行事(敬老会、母の日会など)で、家族の状況や要望を傾聴し事業所との柔軟な体制を構築させる。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>介護者が変わることによる、利用者様へのダメージを考え、法人内の人事異動の際には、各事業所の主任以上の役職での会議(主任会)において、事前に協議し決定している。退職による欠員補充に関しても、事業所内の職員状態(性別、年代、経験及び能力)を踏まえ、各事業所に配属している。</p>		<p>主任会等を通じて職員の意見を踏まえ役職者との協議の上人事異動を行い、上司は人事異動による意欲低下を防ぐ為、相談等を受け助言していく。</p>

グループホーム やまびこ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除せず、本人の福祉職員としての能力及び可能性を採用基準としている。</p>		<p>職員の昇給昇格の機会を増やしたり、外部研修への参加及び資格取得への支援等を行い、職員のモチベーションを上げられるよう努めている。</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>社内研修において「認知症の人の望ましい接し方及び暮らし」についてグループワークを行い、人権尊重についても考える場を設けている。</p>		<p>社外での関連する研修に積極的に参加を促したり、社内においてもミーティング及びその他社内研修の場において人権尊重について常に考える機会を増やす。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的な社内研修の実施。社外への講演会及び勉強会への参加を促し、スキルアップ出来る環境を考慮している。</p>		<p>新人職員、リーダー職員、役職者と段階に応じた社内研修を実施し、組織力の強化と共に、事業所のリーダー職員による新人職員へのOJT教育を行える環境を整え、実行している。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>以前福岡県高齢者グループホーム協議会会員の他グループホームとの人事交換研修を行ったが、職員の退職等での人員の入れ替わりにより、継続が難しく具体的に生かされていない。今後は、継続的な交流が可能な同法人内のグループホームいなほ園との交流を深めて行きたいが、職員の補充採用が上手くいかず先延ばしとなっている。</p>		<p>当法人の運営するグループホームいなほ園との人事交換研修を実施し、新たな利用者様との関わりを通じて、認知症介護の初心を学べるように、取り組んでいく。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職場を離れて、職員同士の交流が図れるよう、慰安旅行や懇親会を開催し、職員同士が互いに悩みや思いを気楽に打ち明けられる機会を設けストレス軽減に努めている。</p>		<p>懇親の場を、事業所ごとに設ける取り組みも検討している、懇親会を増やす事で職員が負担にならないよう調整し実行していきたい。</p>

グループホーム やまびこ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	主体性を持って働けるような環境を整備している。又、御家族様等からのお礼やお褒めの言葉は惜しみなく伝え、やりがいのある仕事である事を実感してもらえる様取り組んでいる。		関係機関等との外部との接点を多く設け、介護職の素晴らしさを実感できるような機会を設ける。(地域相談会、家族相談会など)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人自身から困っていることを聴く機会は、一对一の個人ケアをする事で受けとめる努力を行っている。		本人様が話す事で、気持ちが落ち着かれる事で、一对一の個人ケアの取り組みを大切にしている。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御家族様の悩み等を親身に受け止め、話しやすい状況を作り、その思いを聞けるように努めている。		御家族様の悩みや思いを、家族の視点で捉え、同調すると共に専門家としての適切な助言を行い、信頼関係を築いていく。
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時や電話相談にて職員が家族の要望や悩みを傾聴し、不安解消する為に受容、助言を行っている。又、いつでも来所しやすい雰囲気作りに努めている。		本人のニーズや問題点を多角的な視点で捉え、適切な助言を他の関係者等を交えて支援して行く。
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者のニーズ、問題点、利用者が不安なく過ごす為の情報等を御家族様などの協力を得て収集し、事業所の雰囲気に馴染めるようにケアプランを作成し、実践している。		不安や心配事がある時は、利用者様との交流を持って気分転換して頂く。また、より良い生活が送れるようにケアプランを作成し支援している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩として尊厳し、時には親しい関係になり、気持ちを共有している。		日常生活において、料理、洗濯、掃除など、常に指導して頂き、学んでいる。

グループホーム やまびこ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	お誕生日会や行事に参加して頂き、一緒に本人様を支えていく関係を築いている。		行事に関わらず、気軽に来て頂ける関係を築き、おやつ作りや、洗濯たたみなどをしながら、利用者様の生活状況やしてほしい要望などを雑談の中で聞き入れている。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	お誕生日会や、行事、レクリエーション、年に1回の家族会には出席して頂き、御家族様と過ごす時間を提供している。状況に応じては、面接に来て頂いたり、電話をしたり、御家族様と過ごす時間、交流を大切にしている。		御家族様と週に1回のドライブに行ったり、お墓参りや四季の花を観に行ったりして頂いて御家族様との時間を過ごして頂いている。月に1回やまびこ便りを発行し、利用者様、職員と一緒に食事作りをする機会を作っている。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのあるお店(飲食店)や、美容院などに、御家族様にも協力して頂き、定期的に行えるよう、支援している。		御家族様とスタッフが協力し、思い出の場所などに行けるよう、努めている。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士の関係を把握し、孤立しないように、スタッフが間に入り、よい関係ができるよう、努めている。		御自分のお気に入りの場所がある利用者様は、お好きな場所で過ごして頂き、利用者様同士が会話できる雰囲気を作るよう努めている。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	亡くなられたり、入院の為、退所された御家族様と年に2回食事会を行い、良い関係を築いている。又、会報誌等を通じて活動を報告している。		御家族様の思い出を大切にすることで、御家族様の安心感を大切にしている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今だから出来ること、今しか出来ないこと、利用者様一人ひとりに合わせたケアを心がけている。利用者様の希望をかなえてあげるため、御家族様と相談し、協力をお願いしている。		利用者様の今したい事などを聞き入れ、御家族様と話し合いながら、実現できるように支援する。

グループホーム やまびこ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ミーティングや面会時に、御家族様より話を聞いたり、生活していく中で、利用者様との会話をする事で、馴染みな物を見つけ、御家族様に相談し、持ってきて頂けるものをお願いしている。		馴染みな物を、少しでも設置して、自分の家のように落ち着いて、より良い生活ができる環境作りをしている。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送り簿、バイタル表、利用者日誌、業務日誌、出勤時には必ず目を通し、一人ひとりの状況を把握し、利用者様のペースに合わせて、楽しく充実した生活を過ごして頂いている。		体調不良などがあった際には、出勤時に伝達し、状況に応じてゆっくりと過ごして頂く。また、利用者様が不安にならないように心配りし、楽しく過ごして頂く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のミーティングで、ケアの向上の為、利用者様一人ひとりのケアプランについて職員全員で評価を行い見直し、ケアプランに反映している。又、事前に御家族様の意向を確認し反映している。		日勤、夜勤時に、利用者様が不穏や落ち着かないなどの課題が出た際には、日勤帯のスタッフで意見交換し、少しでも安心していただけるように対応する。また、その場にはいないスタッフには、申し送りなどで伝達し、統一したケアを行っている。職員をなかなか受け入れて頂けない利用者様には、個別ケアを行い、信頼関係のできるよう取り組んでいる。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回は必ず見直しを行っている。状況が変わった際には、御家族様等と話し合い、新たな計画を作成している。新しく計画を作成したときは、必ず御家族様に報告し、同意書の確認をお願いしている。		ありのままの状況を御家族様に伝え、管理者、スタッフと意見交換して、少しでもその人らしい生活ができるように努めている。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の中で、実地、経過や、結果、判断を記録し、一人ひとりの状況を把握しながら、気づきを発見し、情報を共有している。		特に状況が変わった利用者様がいた場合は、個人票に記録し、様子観察を行い、介護計画の見直しにも活かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営推進会議等で入居者の近況を伝え、本人の願いを伝えると共に、家族の近況等を傾聴しいろいろな可能性を引き出せるよう努めている。		入居者及び御家族様からの要望を聞き、事業所として実現できるよう検討し、出来るだけ叶えられるように、支援していく。

グループホーム やまびこ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年に2回消防訓練を行っていて、そのうち1回は、消防署の方にも参加して頂き、実施している。また、地域の方やボランティアの方にも参加して、協力していただいている。		地域の方やボランティアの方に声掛けして、警察の方の指導による、交通マナーや、事故防止の勉強会を行い、多数の参加を頂き、交流を深めている。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向を汲み取っているが、残念ながら他のサービスの活用をしたことがない、仮にそのような状況に置かれても家族の了承を得るのは困難なことが多く、今後事業所側からの働きかけも必要かと思われる。		本人のニーズを把握し、必要に応じて他のサービスの利用を支援できるよう取り組んでいく。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通じて地域包括支援センターとの連携を図り、入居者も必要であれば相談に行けるよう、支援する。		運営推進会議を通じて地域包括支援センターとの協働について地域住民を含め発展した活動を行う。(認知症を抱える家族会等の開催など)
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族様の納得の上、主治医に月1回の往診をお願いしている。又、状況に応じて、御家族様と主治医、事業所と相談し、適切な医療を受けている。		何か体調不良や、心配な状況があれば、電話にて指示して頂いたり、往診して頂いたり、状況に応じて受診するなどして対応している。病院受診の際は、御家族様に許可を頂き、結果を必ず報告している。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	状況に応じて、御家族様と協議し専門医に受診している。利用者様が少しでも良い状況で生活できるよう、日々の状況の記録を開示し専門医からの助言を受けている。		状況に応じて、御家族様同伴の上専門医に受診している。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回、看護職の方に来て頂いている。また、利用者様に異常が見られたり、心配事などがあった際には、すぐに連絡をし、アドバイスを頂き、日々、利用者様の健康管理に努めている。		現状維持を努めると共に、法人内の看護職員による社内勉強会等を開催し、介護職員のスキルアップに努める。

グループホーム やまびこ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族、医療機関等との情報交換に努め、本人が不安なく安心して過ごせるように努めている。又、早期の退院に向けての話し合い相談を行っている。		入院時には職員が適度に見舞いに行き、状況を把握すると共にご家族への早期退院に向けての助言を行い、本人が不安なく安心して過ごせるように努めている。
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の意思を第1に尊重し、ご家族、医師、看護職員、介護職員とで協議し、終末期に向けた取り組みを行っている。		御家族様の気持ちを聞き入れ、スタッフ全員が終末期に向けての対応に取り組んでいる。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	月1回のミーティングにて、話し合う場を持ち、ご家族の方と協力し合って、支援に取り組んでいる。また、かかりつけ医と共に、連携を図り、支持を頂いている。		施設内でできることは、最善を尽くして行っているが、症状の変化や不安が生じた時には、主治医、御家族様、事業所の意見を共有し、利用者様が不安なく、日々、安心して過ごせるように支援に努める。
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族との十分な話し合いを行い、移り住む側の関係者等に状況提供を行っている。又、環境が変化する本人の不安を取り除けるように努めている。		移り住む側の関係者等に情報提供を行い、本人が不安解消できるように支援していく。又、必要であれば、住み替えた所に訪問したり、ご家族の相談を受け入れたりしていく。
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの利用者様を尊重し、言葉掛けに気をつけている。個人情報もしっかりと管理している。		人生の大先輩として、常に敬語を使用し、プライドを傷つけることなく、うわまいの気持ちを持って接している。

グループホーム やまびこ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	起床時や入浴の際に、御自分の好みの服を選んで頂いたり、10時のコーヒータムの際には、何種類か準備し、好みのものを選ぶことで、その人の意思の疎通が図れるように支援している。食事の際には、好まれる物があれば、希望に応じてメニューに取り入れている。		母の日には、施設側からのプレゼントを買いに出かけ、お店で、好みの服を御自分で選んで頂いている。その際には、個別ケアを行い、ゆっくりと店内を回って頂き、選んで頂いている。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、利用者様一人ひとりのペースに合わせて過ごせるように支援している。"ドライブに行きたい"や、"あんこが食べたい"など利用者様の希望に応じて過ごして頂いている。		食事の際、大人数で食べる気分ではない利用者様には、ウッドデッキで気分よく食べて頂いたりもしている。又、入浴も希望に応じて、気分のいいときに入って頂いている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎日、好きな洋服を着て頂いている。又、御家族様とも話し合い、昔から通っている店に行けるよう努めている。排泄後、洗面台の鏡を見ていただき、髪を整えてもらい、少しでもおしゃれに、興味を持って頂くよう配慮している。		外に行けない利用者様には、美容師の方に施設に来て頂き、好みのヘアスタイルにして頂くことで、いくつになっても女性らしい気持ちを持っていただいている。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理が好きな利用者様と一緒に野菜を切ったり、味見をして頂いている。また、後片付けなども一緒に行っている。		料理を作っている最中には、利用者様に味見をして頂いたり、アドバイスを頂ながら、一品でも作り上げることで、自信や食べることの楽しさを実感して頂いている。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	昔から飲まれていたお酒を、毎日、飲みたいときに飲んでいただいている。週1回、刺身の日には、飲める方に必ずお酒をお出ししている。又、食べたい物を食べて楽しんで頂いている。		買い物に行く際には、利用者様全員に食べたいものを聞き、好みのものを買って食べれることで、ストレス解消を図っている。また、買い物へ一緒に行くことにより、商品などが陳列されており、目の保養にもなり、気分転換にもなっている。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックをつけ、排泄のパターンを理解し、排泄介助を行っている。		排泄の失敗した時に、プライドを傷つけないために、オムツを使用している利用者様にも、時間おきに、声かけを行い、スムーズに排泄ができるよう努めている。排泄後は、心地よい温かさで、清拭を行い、快適な気分で過ごして頂くよう努めている。

グループホーム やまびこ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも、お風呂に入れるようにしている。利用者様に合わせて温度調整を行い、一人ずつ、ゆっくりと入っていただき、入りたい時間に入らせていただいている。		無理矢理にせず、入浴したい人から入っていただき、「気持ちよかった。」と言われる入浴を心がけている。また、時間、曜日を決めず、利用者様の希望や、ペースに合わせてゆっくり楽しく入らせていただいている。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昔から習慣で、読みたい新聞を個別に注文したり、ベッドを設置していることで、自室で、好きな時間に休めるように支援している。		プライバシーを守りながら、自室と居間を自由に過ごせる環境にしている。また、休息や安眠の際には、温度調整を行い、快適に過ごせるように、支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔から読まれている新聞を個別で頼んだり、料理と一緒に作ったり、畑仕事を一緒にしたりと、楽しく毎日を過ごして頂いている。また、趣味の大正琴を弾いていただいている。		生活リハビリとして、毎朝、自室の掃除や御神様の水換えや、日付書きや、お茶碗拭きなど、利用者様のできることを、無理なくして頂く事で、張り合いのある日々を過ごして頂いている。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来ない利用者様は、個人個人所持品を持っていないが、お金を所持していることで、安心される利用者様には、御家族様了解の上、小額のお金を所持して頂いている。		買い物に行く時には、施設側より財布にお金を入れて、本人様にお渡しし、清算時には、所持したお金から払っていただくことで、社会的な生活や喜びを実感して頂いている。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	鍵を開けて、いつでも外へ出れるようにしている。また、「どこか行きたい」という希望にドライブや散歩に行き、支援して頂いている。		利用者様の希望により、個別でドライブすることもあれば、買い物に行きたい方には、買い物に出かけたりして、少しでも利用者様が満足できるように、努めている。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常会話の中で、行きたいという希望があれば、御家族様と話し合い、出かけられる機会を作り、支援している。		昔、子供の頃過ごした場所や、兄弟に会いに行ったり、昔よく行っていたお店に行きたいなど、利用者様の希望を受け入れ、御家族様と相談の上、できることは、叶えてあげられるよう実行し、支援している。

グループホーム やまびこ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様からの要望があれば、電話をかけたり、手紙を書いて頂いたりして対応している。また、職員の方からも聞いて、電話するようにする。		時々、御家族様から、電話をかけていただき、利用者様と直接会話することで、喜びや安心を与えることができるよう支援している。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者が来られたら、自室であったり、居間で過ごして頂いたり、気を遣われないように努めている。		スタッフ一同、普段の様子を話したり、昼食を一緒に取りながら交流することで、ゆっくり過ごしていただき、よい雰囲気作りをしている。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月1回のミーティングにおいて、身体拘束廃止に対する取り組みについて、読みあわせを行い、身体拘束をしないケアの取り組みについて話し合っている。		スタッフの身体拘束の現場を発見したら、必ず、管理者に報告するようにしている。常に拘束ゼロに努めている。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、利用者様がいつでも外へ出れるよう、鍵を開けている。		外へ行かれる利用者様は、事故のないように常に視野に入れ、出かけられた際は、止めることなく、自由に散歩していただくことで、気分転換していただけるよう努めている。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者様の歩行状態や、体調管理を把握し、スタッフの声掛けで、利用者様の居場所などを確認し合い、安全に配慮している。		夜間、歩行状態の悪い利用者様には、必ず、見守り、介助にて安全を保っている。また、御自分でトイレへ行かれる利用者様は、プライバシーを守りながら、安全確認を行っている。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険を伴うもので、本人様が興味を持たれなくなったり、使用されなくなった物は、御家族様に相談し、引き取って頂く。		はさみや爪切りを持っておられる利用者様には、使用の際は、プライバシーに配慮しながら、見守りを行っている。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬や転倒など、事故にまではなっていない時、“ひやりハッと”で記録し、話し合いの場を持ち、事故防止に努めている。		行方不明を防ぐ為に、利用者様とその日に着ている服を把握しておく。年に2回の消防訓練の際には、利用者様の状況に合わせた訓練を行っている。

グループホーム やまびこ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	感染症、誤嚥した時の処理法や、応急手当の訓練などの社内研修を実施している。		かかりつけの先生の研修や、消防の方の応急処置の研修など年2回行っている。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防訓練を実施している。その際、地域の方にも協力して頂き、一緒に行い、防災について考える機会を持っている。又、毎月のミーティングにおいても防災についての話し合いを行っている。		自宅から施設までの時間を計り、火災時の目安にし、利用者様の避難の手助けを、地域の方々にもして頂く。地域の方には、避難された際、利用者様が混乱して、危険な場所に行かないように、見守り、避難の行動を共にして頂く。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	どんな小さなリスクでも、事故が起きず、安全に暮らせるよう、御家族様に相談し、意見交換しながら、利用者様が快適に過ごせるような環境作りに努めている。		自室のベッドの高さによって転倒されることがあるので、状況に応じては、ベッドを入れ替えている。その時、必ず御家族様に報告し、理解して頂いている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、必ず、バイタルチェックを行っている。また、常に体調の変化等をチェックし、気づいた際にはすぐに対応し、情報を共有している。		日誌に書きとめ、夜勤者に申し送りし、異変があれば、管理者に連絡を取り、指示をあおぐようにする。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにある、処方箋をみて、薬の用法、用量についてデータで綴じているので、スタッフは常に把握しており、薬が変わった時は、申し送りに記入し、全員目を通し把握する。		誤薬の服用のないように、一人ひとり名前の書いた箱に、朝、昼、夕の薬入れを設置している。服薬の際には、必ず3回、確認し、誤薬防止の徹底を行っている。糖尿病の利用者様がおられるので、低血糖にならないように、様子観察をしている。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者様にあった飲食物を提供している。バナナジュースを飲んで頂いたり、廊下を歩いて、		水分補給をこまめにして、トイレ時に、おなかのマッサージをしたりする。入浴時は、プライドを守りながら、おなかのはっていないか確認して、健康管理を行っている。

グループホーム やまびこ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	本人に入れ歯を洗っていただき、ポリドントにつけて清潔維持している。夜間の入れ歯の管理は、本人に納得を得て、職員が管理している。		理解できる利用者様は、歯ぐきに炎症が生じないように、入れ歯を外して頂いたり、うがいをして頂いたりと支援に努めている。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、水分量及び食事を確認している。また、水分量が少ない方には、チェック表を使用し、一日の水分量の確保に努めている。		食事があまりとれない方には、経腸栄養剤(ラコール)を摂取して頂いたり、お茶を好まれない方には、好みのジュースなどを飲んで頂いたり、栄養のバランスや水分確保に努めている。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	こまめに手洗いして頂くよう、声かけを行い、状況に応じてうがい等もして頂く。職員も一つの動作ごとに必ず手洗いをし、感染防止に努めている。		食器や衣類の、熱湯消毒、漂白し、感染者が増えないように、利用者様を介助する際には、マスク、手袋を使用し、手洗いの徹底を行っている。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎晩、調理器具は漂白剤に浸けて清潔に努めている。又、食材は常に新鮮な物を使用し、食中毒防止に努めている。		賞味期限が過ぎないように、消化し、食材を購入した際は、先にも買った方から使用し、食材には購入した日付を書いている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	毎月、やまびこの予定表をやまびこ便りとして配布し、行事がある場合は、ポスターやチラシも配布している。いつでも、玄関を開放し、出入りしやすいようにしている。		門の塀のタイルが分かりやすい目印になっている。また、段差なく、誰でも気軽に、出入りしやすい環境にしている。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、季節の草花を飾っている。音に敏感な利用者様には、静かに休める部屋を準備し、快適に生活できるようにしている。		毎日、日付書きや、日付読みを行ったり、廊下に季節にあった飾り物を設置し、利用者様と交流しながら、季節感を味わって頂いている。

グループホーム やまびこ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった利用者様同士、部屋を行き来したり、ウッドデッキで過ごすことで、開放感があり、自然に利用者様が集まってきて、思い思いに楽しく自由に過ごして頂いている。		昼食や、おやつ時、ウッドデッキにて、食べて頂いたり、気に入った場所で過ごして頂く。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の居室は、全て、畳とふすまで、昔から住み慣れた環境に近づけて過ごして頂いている。		なじみのタンスや、毎日使用していた布団や、好きな絵などを部屋に飾ることで、御自分の家のように居心地よく過ごして頂いている。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気のよどみがないよう、毎日換気を行うよう努めている。外気温差がないよう、こまめに温度、湿度チェックを行っている。		季節感を重視しながら、衣類で調整することで、快適に過ごして頂いている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるよう、廊下に手すりを設置し、御自分の足で歩けるよう、工夫している。生活リハビリとして、毎日、掃除を一緒に行っている。		掃除の際は、モップがけや、雑巾がけ、箒ではわいたり、食器拭きや、洗濯たたみなどを一緒に行っている。気候のよいときは、状況に応じて散歩している。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱を防ぐ為に、目印となるものを設置し、理解して頂いている。できることを頂くことで、自信や、喜び、生きがいとなっている。		トイレに赤いのれんを設置することで、目印となり、トイレだと認識できている。また、一人ひとり、自室に名前入りの壁飾りをつけて、自室と把握できるように工夫している。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキにいつでも出て過ごせるよう、ソファーやいす、テーブルを設置している。洗濯場に椅子を設置することで、利用者様と一緒にたたんだり、楽しい時間を過ごして頂いている。		ウッドデッキにて、食事やおやつなどを食べて頂いたりしている。食事前は、広い空間を利用し、大きな声で歌う事で、誤嚥防止に努めている。

グループホーム やまびこ

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム やまびこ

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・それぞれ高齢になられたが、行ける間に行きたい所に連れて行ってあげたいので、日々の生活の中で、ご本人様から出来る言葉をどんな小さな言葉でも聞き取り、出た言葉がなるべく叶えられるように、スタッフご家族様で協力し合って出来る範囲で叶えられるように支援している。
- ・入居者のストレス解消を図る為に、外出の機会を増やしたり事業所内においても季節感を感じられるよう装飾（生花など）を行っている。
- ・介護職員においても主体性を持って働けるように「明るい職場」「働きやすい職場」となる様に介護におけるストレス解消の場を与え介護職員が向上心を持ち個人個人のスキルアップに向けて取り組んで行けるよう法人全体で取り組みを行っている。
- ・当法人の運営する「グループホームいなほ園」「宅老所やまびこ」との交流を図り互いの行事に参加し入居者の楽しめる場を増やせるよう取り組んでいる。
- ・定期的に地域ボランティアの方が訪問して下さる。入居者を地域住民との接点が増える事により、地域に開かれた事業所として住み心地のよい環境となっている。